

# 第1回 設計ワークショップ[まとめ] 2019 5/25(土)

フィールドワーク → 広場の使い方を考えよう

## ●第1回ワークショップの概要

実際の敷地を訪れて、そこで感じたことや考えたこと、どのように敷地を使いたいのか、敷地周辺との関係、駐車場・駐輪場、その他について議論して頂きました。

## ●ワークショップの流れ

1. あいさつ・設計ワークショップについての説明
2. 自己紹介タイム
3. フィールドワークタイム
4. グループワーク
5. 発表のじかん
6. さいごに



## グループA

- ・図書館の本が読める広場としてほしい。
- ・子どもが遊ぶ広場には地下水を利用した水飲み場。
- ・子どもが土や草にふれあえるようにしてほしい。
- ・車と人の安全性に配慮してほしい。
- ・樹木の専門家の意見を聞き、残しても無駄な木は伐採。
- ・ふじ棚を小さな公園に移設してほしい。
- ・敷地の廻りの樹木は可能な限り残してほしい。
- ・広場に災害時には薪やトイレが設置できる工夫をしてほしい。
- ・中央線の下に通路を設けてほしい。
- ・敷地内はできるだけ坂を無くしたい。
- ・シルバー人材センターが広すぎる。その分りサイクル事業所の展示スペースを確保。



## グループB

- ・桜に限らず、四季が感じられるような多様な樹種が良い。
- ・木陰があるとよい。
- ・災害時に使えるように平置き駐車場が良い。車止め不要。
- ・水がしみこむ駐輪場。
- ・駐輪場は電動自転車もとめやすいように。ラック不要。
- ・3人乗り自転車の駐輪専用エリアがあると助かる。
- ・高架下に地元の小さな飲食店があると良い。
- ・広場と高架下を一体利用ができるなどイベントがしやすい工夫を。
- ・親水ひろばは子連れには喜ばれる。衛生面をしっかりして欲しい。ランニングコストがかからないものに。
- ・こどもひろばは芝生がよい。
- ・新福祉会館の子育てひろばは1階が良い。屋上も遊べるひろばに。



## グループC

- ・現状の使い方がそのままできるようにしたい。
- ・それぞれ特徴のある広場をつくりたい。  
(幼児向け、小学生、高齢者、庭園など)
- ・ボールの使えるひろい広場をつくりたい
- ・管理しやすい広場ではなく、市民が使いやすい広場。
- ・敷地への入り口は多くあった方がよい。
- ・既存の樹木を生かしたい。
- ・自転車利用、子連れが多いため、自転車専用ルートの確保、平置き自転車置き場にしてほしい。
- ・西側道路が渋滞しないように計画してほしい。
- ・敷地へのアクセスは多い方がよいが、不審者が入ってきた時に分かるように死角がないほうがよい。
- ・近隣住居への配慮が必要



## グループD

- ・出入口を明確に、大きな入り口を2ヶ所にしてほしい。
- ・COCOバスは必要、公共交通手段の確保。
- ・地上駐車場は、防災時のテント杭を打てるように計画してほしい。
- ・地上の駐車場は危ないので基本的にすべて地下駐車場。
- ・広場をできるだけ広くとり、遊びにも災害にもそなえる。
- ・大人も使える運動広場。
- ・老人も子どもも遊べる歩く健康道みたいなものがほしい。
- ・防災井戸は平時も遊具として兼用できるポンプを設置してほしい。
- ・四季が感じられる植物、子どもが遊べる植物。
- ・緑に囲まれた親水広場はぜひ。
- ・プレーパークのような自発的な遊びを促す遊具がほしい。
- ・雨や雪の時に、水が溜まらないように。
- ・ハンディキャップのある人にも十分に配慮すべき。



## グループE

- ・水遊びができるプレーパークがほしい。
- ・広場は、もう少し土着的にしてほしい。(ボール遊び・野球などができない)
- ・既存公園では花見をおこなっていたため、それが継続してできるようにしてほしい。
- ・ピロティ範囲を広げて、広場を大きく確保。
- ・アスファルト駐車場としないほしい。普段は広場として、臨時駐車場スペースとするのはどうか。
- ・自転車スペースの検討(台数・場所・電動自転車によるゆとりのある駐輪スペースの確保)
- ・駐輪場を地下に確保して、地表面には広場を大きく確保。
- ・COCOバスの本数を増やして、駐車台数削減。
- ・高架下を効率的に利用する。
- ・中高生が良い環境で溜まれる空間としてほしい。

